漢字指導改善についての実証研究について

東近江市教育委員会学力向上支援員
上野 芳樹 （橋野　勝）

1. 漢字指導の改善提案

◎学習指導要領に示された教育漢字の全てを低学年の段階から表記する。
上学年に配当された漢字についてはルビをふる。

◎漢字習得の指導を「読み・書き同時進行」から「読み優先」にする。

2. 提案の理由

(1)読みの難易度

・例えば、「はつ明」と部分表記するのと「発(はつ)明」とルビ付きで本来の漢字表記にするのとでは、読みの難易度という点では全く変わらない。単語の意味把握という点では、むしろ優れているのではないか。

(2)漢字の習得しやすさ

・ルビ付き表記で日常的に漢字に触れることで､無理なく自然に漢字を読む力が育つ。また、目で触れ、字形・意味を把握できていることで、上学年になったとき、その漢字を書けるようになる労力も軽減されるのではないか。

(3)実効ある学力向上策

・漢字仮名交じり文に日常的に接していることにより、文字情報への抵抗感が薄れ、新聞・書籍など、読書の世界が大きく広がることが期待される。日常生活をより豊かなものにしていく可能性をもっている。

3. 漢字表記についての文科省の姿勢

「平成 18、19 年度文部科学省委嘱事業「教科書の改善・充実に関する研究事業」第 1 章 4. 2. (5) 漢字表記、提示の仕方を改善・充実させる 」で次のように述べている。

第 1 章 4. 2. (5) 漢字表記、提示の仕方を改善・充実させる

現職教員や保護者のアンケートの自由意見において言語事項については漢字の配当単元の偏りなどによる児童・生徒の学習負担などの指摘があった。また後年度配当される漢字をルビ付きで示すことや学年配当されていない常用漢字についても教科書に使っていくべきとの意見も専門家会議では出てきている。児童・生徒が一般社会で必要とする力を育成するため、また必要語彙の習得という点からも漢字表記については一層の改善・充実が必要である

現行の教科書における漢字の取り上げ方について、改善すべき点として、
• 漢字の配当単元の偏り
• 配当学年と日常生活で使用する言葉のずれ

があげられる。
　特に 2 点目に関して現行の教科書を見ると、配当学年にない漢字でも、上学年の漢字をつかいルビ付き表記をしている例は多い。今後も、配当漢字にないが、学習や日常生活で必要な言葉は児童の負担にならない程度に漢字を使用するべきと考える（例えば、「疑問」の「疑」は 6 年生、「問」は 3 年生の配当であるが、3 年生で語彙として初出のときは「ぎもん」と平仮名表記、上学年になるとルビ付きで示されている。）。日常生活で使うことを考え、ルビを付け漢字表記をすることが言葉の獲得につながると考えるため、できる限り上学年の漢字をルビ付きで使用するよう柔軟に取り上げるべきである。

2　漢字表記の改善・充実について（その 2）

　漢字の指導は語彙指導の一環として行われることが望ましい。語彙指導の一環として漢字の指導を行うとは、語彙を指導するときにその漢字表記もあわせて指導すべきであるという意味である（国立国語研究所　日本漢字能力検定協会助成研究　2003 年 2 月）。
　漢字は覚えるまでに苦労があるが、覚えてしまえば生涯を通じての効用が極めて大きい。漢字の習得度と学習能率とは相関関係があり、漢字の早期教育は児童の負担になるよりも、その後の教育の成果につながっていくことはこれまでどの教師も実感しているところである。

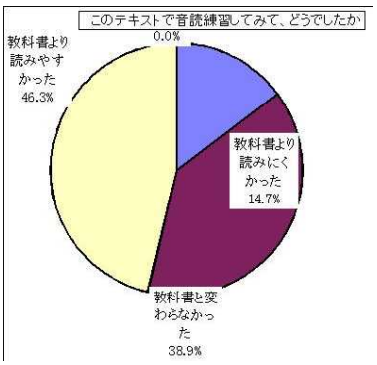
　漢字指導の目的は習得量を増やすと共に、漢字に対する感覚を養い、文字やことばへの広い視野や感性を育てていくことにつながると考える。漢字の習得量が増えるということはことばへの感覚の働きが豊かになり、語彙が広がるということでもある。

4. 漢字ルビ付きテキストの試行結果

平成２７年度３学期、東近江市立湖東第一小・湖東第二小・玉緒小の三校の三年生に、「人をつつむ形」の単元でルビ付き漢字テキストを音読テキストとして使用してもらった。学習後のアンケート結果は次のとおりである。

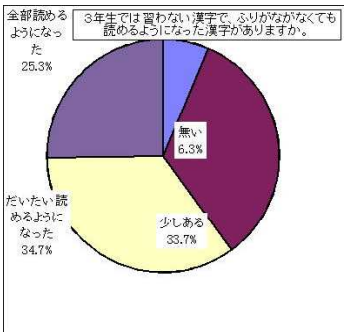
１．このテキストで音読練習してみて、どうでしたか？

選択項目	人数	構成比
教科書より読みにくかった	14	14.7%
教科書と変わらなかった	37	38.9%
教科書より読みやすかった	44	46.3%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%



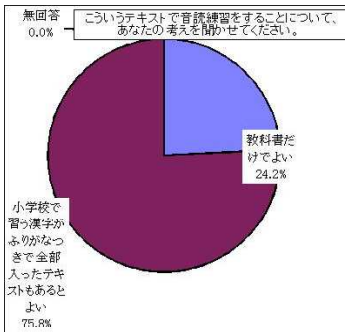
２．３年生では習わない漢字で、ふりがながなくても読めるようになった漢字がありますか？

選択項目	人数	構成比
無い	6	6.3%
少しある	32	33.7%
だいたい読めるようになった	33	34.7%
全部読めるようになった	24	25.3%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%



３．こういうテキストで音読練習することについて、あなたの考えを聞かせてください。

選択項目	人数	構成比
教科書だけでよい	23	24.2%
小学校で習う漢字がふりがなつきで全部入ったテキストもあるとよい	72	75.8%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%



４. 実証研究の進め方

(1)実証研究の課題

ルビ付き漢字表記の有効性を実証するには、次の３点が確かめられる必要がある。

①読み易さ

・ルビ付き漢字表記テキストは、従来の表記と同等か、むしろ読み易いと確かに言えるか？

②内容理解の有用性

・表意文字である漢字を使うことによって、ひらがな表記より文・言葉の意味理解が容易になると確かに言えるか

③漢字習得の程度

・ルビ付き漢字表記テキストを使用することによって、漢字の習得(読み書き)が今より容易になると確かに言えるか。

④日常生活への効果

・ルビ付き漢字表記テキストで漢字に触れることによって、新聞、書籍など、日常生活場面で読む対象が広がっていくと確かに言えるか。

５. 実証研究の進め方

(1)漢字ルビ付きテキスト･「めざせ！漢字音読名人」の作成と試行

・東近江市教委学力向上支援員で作成。

・市内の各小学校に紹介し、主旨に賛同していただける学校で試行してもらう。
(現在、八日市西小・八日市北小・布引小・能登川北小・能登川西小・能登川南小五個荘小・湖東第一小・湖東第二小・蒲生東小・蒲生西小の１１校が試行)

・試行後、アンケートで子どもたちの声を集約する。

(2)研究協力校の選定

・漢字ルビ付きテキストの有用性を客観的に実証するための研究協力校を募る
子どもたちの変容を定量的データによって客観的に評価できるようにしていく。